

留置ステップ



- デバイスの位置決め**
- 外弯に沿ってデバイスを配置する。
 - 留置目的位置を通過するまでデバイスを進めてから目的位置まで引き戻し、デバイスに蓄積されたエネルギーを解放する。



- 中間径への一次展開**
- グレーのプライマリディプロイメントハンドルを回転させて引き、ステントグラフトを中間径(約50%)まで展開させる。



- 完全展開のための二次展開**
- グレーのセカンダリディプロイメントハンドルを回転させて引き、ステントグラフトを完全に展開させる。
 - デバイスはロックワイヤーによって、この時点で、デリバリーカテーテルに接続されたままになっている。



- ロックワイヤーの取り外し**
- レッドロックワイヤーハンドルを回転させて引く。
 - ロックワイヤーを取り外すと、ステントグラフトがデリバリーカテーテルから外れる。
 - 一定の動作で引く。

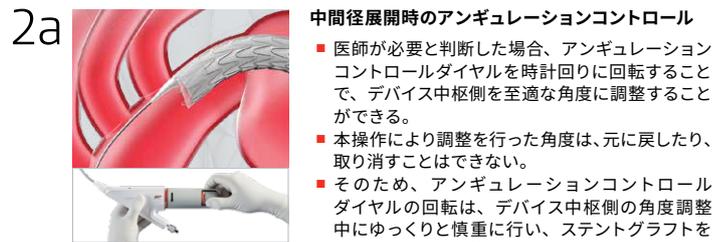


- アンギュレーションアセンブリハンドルの取り外し**
- セーフティロック (レッドスライダー) を手前に引き、グレーのアンギュレーションアセンブリハンドルを回転させて引く。
 - 一定の連続した動作で引く。
 - デリバリーカテーテルを体外に抜去する際は、安全にステントグラフトから引き抜くために、X線透視下で行う。

任意のアンギュレーションコントロール



- 先端チップのプロキシマルアライメントマーカの位置合わせ**
- 中枢側の角度調整を行う場合は、先端チップのプロキシマルアライメントマーカがガイドワイヤーより大動脈の外弯側に位置するようデリバリーカテーテルを配置する。



- 中間径展開時のアンギュレーションコントロール**
- 医師が必要と判断した場合、アンギュレーションコントロールダイヤルを時計回りに回転することで、デバイス中枢側を至適な角度に調整することができる。
 - 本操作により調整を行った角度は、元に戻したり、取り消すことはできない。
 - そのため、アンギュレーションコントロールダイヤルの回転は、デバイス中枢側の角度調整中にゆっくりと慎重に行い、ステントグラフトを希望の位置に調整するために必要な最小限の角度調整のみ行う。

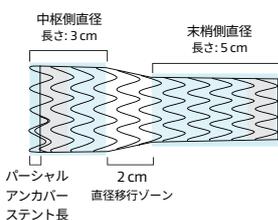


- 完全展開時のアンギュレーションコントロール**
- 医師が必要と判断した場合、アンギュレーションコントロールダイヤルを時計回りに回転することで、デバイス中枢側を至適な角度に調整することができる。
 - 本操作により調整を行った角度は、元に戻したり、取り消すことはできない。
 - そのため、アンギュレーションコントロールダイヤルの回転は、デバイス中枢側の角度調整中にゆっくりと慎重に行い、ステントグラフトを希望の位置に調整するために必要な最小限の角度調整のみ行う。

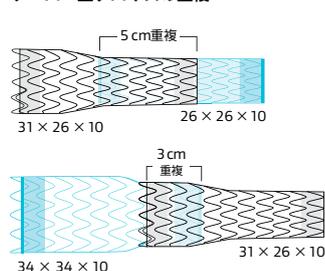
複数のデバイスの使用に関する注意点

テーパ型デバイス

- ・ ストレート型デバイス、テーパ型デバイスともに、パーシャルアンカバーステントは2 cmの中枢側ランディングゾーンに含まれる。



テーパ型デバイスの重複



複数のデバイスの使用

- ・ 2つ目のデバイスが1サイズもしくは2サイズ大きい場合: 重複長 \geq 3 cm
- ・ 2つ目のデバイスが同径の場合: 重複長 \geq 5 cm

